

科目名	生体機能検査学特論 (Advanced Study on Biological Function)			科目コード	M316
選択区分	選択	履修時期	1 後	単位数 (時間)	2 単位 (30時間)
担当教員	山口 文徳・岡村 法宜			関連DP	医③⑤
授業概要	生体内でおこなわれている情報伝達機構について分子レベルからマクロレベルまでを解説し、生理機能検査の意義と結果の解釈について教授する。				
授業目標	医学・生物学の進歩により生体の機能は分子レベルまでさかのぼることができる。学部で学んだ解剖生理学および生理機能検査学をさらに深く理解することにより、生理機能検査で得られるデータが何に由来しているのか、臨床での応用力・展開力の向上と研究遂行能力を養うことを目標とする。				

授業内容とスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ガイダンス	生体内の情報伝達機構-分子からマクロへ-	山口文徳 岡村法宜
2	神経系機能の 分子機構	細胞内情報伝達機構、神経細胞による情報伝達メカニズムや脳機能の分子メカニズムについて教授する。	
3			
4			
5	神経疾患と検査、 診断、および先端 研究の動向	中枢性・末梢性の神経変性疾患、脳腫瘍などのメカニズムと検査、診断、および先端研究の動向について教授する	
6			
7	感覚系機能の 分子機構	視覚、聴覚、体性感覚など感覚系のとシグナル伝達機構について教授する。	
8			
9			
10	感覚系の異常と病 態、検査、診断、 および先端研究の 動向	感覚系の異常と病態、検査、診断、および先端研究の動向について教授する	
11			
12	生活習慣病の分子 機構	糖尿病や高血圧のメカニズムやシグナル伝達機構について教授する。	
13			
14	生活習慣病と検査、診断、および先端研究の動向	糖尿病、高血圧などの生活習慣病の検査、診断、および先端研究の動向について教授する	
15	総括	総括および課題のプレゼンテーションとディスカッション	
成績評価方法		課題レポート (70%)、プレゼンテーションとディスカッション (30%) で評価する	
必携あるいは参考図書・文献		大久保昭行、中井利昭、渡辺清明編、実践臨床検査学, 文光堂 福田 康一郎監修 標準生理学、医学書院 および最新の論文	
授業時間外の学習について			
関連科目		317 生体機能検査学演習	
備 考			